

* ナノ・クリーナの洗浄効果！！！！

キッコーマン開発のATP+AMPふきとり検査で感染対策に!! 医療現場の目に見えない汚れが一目でわかる!

<ATP+AMPふきとり検査とは?>

ATP:アデノシン三リン酸 AMP:アデノシン一リン酸(ATPが変化した物質)

これらは生物には共通して必ず存在する物質で、人の血液・体液・排泄物や細菌にも含まれている為、汚れの指標として最適です。

洗浄前と洗浄後のATPとAMPの量を比較することによって洗浄効果が分かります。

つまり、洗浄後にATPとAMPが多くあれば洗い残しが多く、洗浄不良と判断できます。

清潔な状態とは?

菌や血液、体液、排泄物、微生物等も洗浄された状態のことです。

ナノ・クリーナでの洗浄の必要性

培養法判定結果	汚れの状態	ATP法判定結果
汚染あり	<p>菌、体液、その他の汚れ、皮脂</p> <p>※右図の桃色の範囲</p> <p>高頻度手指接触表面</p> <p>洗浄、殺菌ともに不十分な状態</p>	汚染あり
汚染なし 微生物増殖の潜在的な危険性を見逃す可能性あり	<p>体液、その他の汚れ、皮脂</p> <p>※右図の緑色の範囲</p> <p>高頻度手指接触表面</p> <p>洗浄不良の状態、殺菌のみOK</p>	汚染あり 微生物増殖の潜在的な危険性も検出可能
汚染なし	<p>※右図の水色の範囲</p> <p>高頻度手指接触表面</p> <p>洗浄・殺菌ともにOK</p>	汚染なし

正しい清浄度判定には、菌だけではなく、体液・皮脂・その他の汚れ等もチェックする

必要があります。培養法では、菌の有無しかチェック出来ません。

ATP法では、菌以外の汚れの検出も可能なため、洗浄不良を正確に判定し、

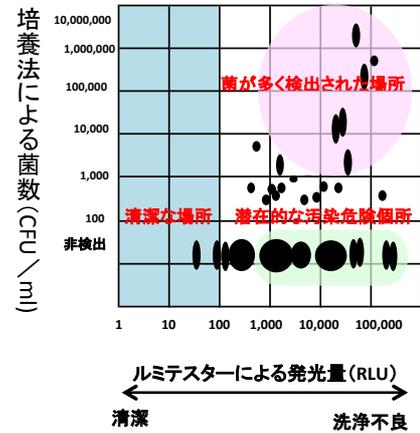
洗い残しによる菌の増殖を予防出来ます。

環境検査

検査場所、管理基準値

検査場所	管理基準値 (RLU)	検査場所	管理基準値 (RLU)
ナースステーション		厨房	
ワゴン	200	包丁	200
聴診器	200	野菜皮むき	200
血圧計ポンプ	500	玉杓子	200
点滴台	500	まな板	500
電話受話器	200	野菜ザル	200
パソコン(キーボード)	200	水道栓	200
パソコン(マウス)	200	シンク	200
冷蔵庫取っ手	200	冷蔵庫(取っ手)	200
病棟		出入りロドアノブ	200
オーバーテーブル	500	盛り付け台	200
ドアノブ	200	手指	
ベッド棚	200	手の平(きき手)	1500
ナースコールボタン	200		
スイッチ各種	200		
ME機器周辺			
タッチパネル	200		

一般生菌数とATP量の関係



ATP+AMPふき取り検査を用いての ナノ・クリーナによる洗浄効果測定結果

動物病院内測定場所	洗浄前	洗浄後
診察台	52851	112
手指	4381	1085
ドアノブ	7683	79
入院犬舎	415869	967
モスキート鉗子(5分浸漬)	6561	937

※ATP+AMPふき取り検査は、「食品衛生検査指針微生物編2004」(厚生労働省監修)に記載されています。

※ATP+AMPふき取り検査は、キッコーマンが開発したルミテスターを用いて行った検査結果です。

(特許No.3409962)

※測定単位は RLUで、RLU値が高いとATP量が多い(=汚れが多い)と判断されます。洗浄前と洗浄後のRLU値(ATPとAMPの量)を比較することで洗浄効果がわかります。洗浄後にATPとAMPが多くあれば洗い残しが多く、洗浄不良と判断できます。